

指定校番号	28110	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	宮里 浩寧	生徒指導主事	高尾 真吾
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい 『キーワード 主体的で創造的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育てる。また、新しいことに挑戦する意欲を持たせて成功体験をさせることにより、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容 『キーワード 3年生のリーダーシップと協力』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピール時間（応援合戦）を設定した。昨年度よりも時間を延ばし、条件も広げて、より生徒たちの工夫が反映されるようにした。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を設定し、この発表においても時間を昨年度より1分間伸ばし、より、自分たちの思いを表現できるようにした。
- ・ 文化祭で、栗原中学校創立70周年記念バッジをPTAと協力して作成し、全校生徒に配布した。



- ・ 文化祭において、初めて全校合唱を取り入れ、「Let's search for tomorrow」を合唱し、歌声を体育館に響かせた。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 条件の設定と教員のサポート』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、生徒会執行部と一緒に全体への指導や声かけをした。また、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 生徒に全てを任せて放任するのではなく、統一した条件の下、生徒が自分たちで創り上げたと思えるように、生徒の様子をしっかり見ながら、トラブルが起きないようにサポートした。また、時間の確保や準備物のサポートなどをしながら自主的に活動させた。
- ・ 文化祭の表現活動については、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が創意工夫をし、取組を進めた。

取組の成果（効果） 『キーワード 一体感』

・体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかうとする姿が見られた。1・2年生もその姿を見て、3年生への感謝の言葉や賞賛の言葉がアンケートから見られた。また、時間が延びて表現の条件も広がったことで、昨年度よりも良いものにしていく姿勢が見られた。



・文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。ここでも発表時間が延びたことで、「夢」をテーマにより多くのことを伝えようとする姿勢が見られた。どの学級も自分たちのカラーを十分に出して表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。

・全校合唱では初めての取組であったが、見ている人すべてが感動に包まれるような一体感のある歌声を披露することができた。保護者アンケートでも全校合唱への良い評価が多かった。



・学校評価に係わる生徒アンケートでは「栗原中学校には生徒が自主的・主体的に活躍できる場面があります」という項目で1学期・2学期の平均が77.2%であった。

今後の展開『キーワード 創造と挑戦』

・これらの取組はほとんどが生徒会執行部の提案から実現したものである。自分たちが提案したことが認められて、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を新生徒会執行部が引き継ぎながら、新たなことにも挑戦させていきたいと思う。また、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わりと評価の仕方』

・生徒にすべて任せて何でも自由にさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。

・教員は、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、共に頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

・生徒のがんばりに対する評価は、口頭だけではなく、目に見える形で評価したり、全体で紹介するなどして、自己肯定感が高まるように工夫することで、より主体的な行動が見られると考える。